

令和4年度 自己評価結果公表シート

豊中みどり幼稚園

1. 本園の教育目標

- 心身ともに、たくましく元気な子どもに
- 思いやりのある、あたたかい心の子どもに
- よく考え、判断し、行動できる子どもに
- 幅広い経験に意欲を持って取り組み、やり抜く子どもに
- 自分の感じたことを豊かに表現できる子どもに

2. 4年度重点的に取り組む目標や計画

1. 子どもの主体性を育む自園の保育や子ども理解を深め、共有する。
室内あそび・戸外遊びを通して、子ども達の興味関心と育ちのつながりを探り教育・保育の充実を図る。
2. 園の保育や子ども達の育ちの理解、推進を図る
子どもの育ちや保育の取組みを配信システムを使ってフレッシュな状態で可視化し、保護者の理解を深める。保護者と子どもの育ちを共有し、また家庭での子どもとの対話にも活かして共に育ちを共有する。
3. 業務の効率化、可視化
保育後のスケジュールの計画を立てて可視化し、見通しをもって仕事を進めていく基盤を作る

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1.子どもの主体性を育む自園の保育や子ども理解を深め、共有する。 室内あそび・戸外遊びを通して、子ども達の興味関心と育ちのつながりを探り教育・保育の充実を図る。	職員間で 2 つのチームを編成し、学期ごとに課題や成果をまとめ、共有する場を設けた。子どもの姿や育ちを分類し、子どもの姿から育ちの道筋の理解へとつなげていった。
2. 園の保育や子ども達の育ちの理解、推進を図る 子どもの育ちや保育の取組みを配信システムを使ってフレッシュな状態で可視化し、保護者の理解を深める。保護者と子どもの育ちを共有し、また家庭での子どもとの対話にも活かして共に育ちを共有する。	「おうちえん」を利用し、週1回のペースで子どもの姿や育ちを配信していった。タイムリーに発信したことで、保育内容や生きた子どもの姿を感じてもらえた。子どもと一緒にみたり、生きた姿を伝えたりすることで、家庭での子どもとの対話にもつながっている。子どもの育ちを共有し、育ちをささえる姿勢もみられた。 また、保護者からコメントをもらえる事で、保育者のモチベーションも上がり、子ども理解が深まった。

3. 業務の効率化、可視化 保育後のスケジュールの計画を立てて可視化し、見通しをもって仕事を進めていく基盤を作る	保育後のスケジュールを計画し、可視化、掲示することで、見通しをもって仕事を進めていく意欲が出てきた。実際に効率よく仕事が進められていく実感も持てた。同時に課題も見えたので、次につなげていきたい。
---	---

4. 4年度の目標や計画の総合的な評価結果

昨年に引き続き、コロナ感染対策をしながら、子どもの育ちを支えていく為に、行事や活動の実施の仕方や取り組みなどを工夫した。行事は学年ごとに行ったり、参加人数の制限をしたりしたので、配信する機会を多くした。配信することで、子どもの育ちや保育内容などをたくさんの方と共有でき、理解を得る事ができた。タイムリーにわかりやすい写真を使って配信し、こどもの姿や育ちを伝えてきたことにより、保護者・保育者・子ども間に対話が生まれ、相互理解を図ることができた。さらに教育理念や保護者に配信の目的、ねらいを周知し、深めていきたい。

今年度も2つのプロジェクトを作り、視点を絞って子どもの育ちをみて、その姿を職員間で共有していった。また、学期ごとに月の振り返りをする場を学年ごとにつくり、共有していく事で、1年を通しての子ども育ちや、保育者が子どもの思いを理解する等、子ども理解が深まった。

業務効率化の取り組みとして、業務をICT化したり、園内全てにwi-fiを通したり、自分達の仕事を計画・可視化したりしていくことで、やるべきことや時間を有効に使える事が出来てきた。また、今年度の経験を活かし、さらに改良、改善をしつつ次年度につなげ、教育、保育の質を上げていきたい。

5. 今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
業務の分担・サポート・効率化	延長保育担当の人員を増やし、休憩時間の充実を図る。また、スケジュール明確化し分担することで、効率よく保育が行えるようにするとともに、意欲の向上につなげる。 担任も、大きな業務(保育)計画から、細かく落とし込み、可視化する。そこから業務内容や時間の振り返りや見直しを行い、幼児教育・保育の専門性を高めるための時間を確保していく。
子どもの姿に合わせた保育環境や保育の充実	その時期の子どもの興味や育ちに合わせた保育環境を工夫し、用具や教材等も見直し、充実させていく。
食育活動の推進と充実	コロナも落ち着きを見せたので、本園の特色である「食育活動」を広げ、更に充実させていく。

6. 学校関係者評価

・行事の時にその過程のドキュメンテーションを掲示することで、子どもの様子や成長など保育の経過等が伝わりやすい。子どもの成長を身近に感じ、一緒に活動したような臨場感も味わえる。

・コロナ禍で子どもの様子が見られない中、週1回の子どもの姿の配信は、リアルな園での様子が見られてよい。保育内容や教育方針の理解にもつながる。

・コロナ禍ながら、行事や保育も、子どもの姿から考えた内容で工夫しながら実施していた。

・「おうちえん」でのコメントから、家庭での親子の対話にもつながっていることが感じられるが、コメントを記載してくださる保護者が少ないという点では、今後の課題となる。